關西大學新報

発行所
大阪市大淀区長柄中通
関西大学天六学舎内
関西大学新報社
電話　堀川(35)2072
発行人　江村淳三
(定価一部十円)

新聞週間（一—七日）記念講演会開く

十月一日から始まる新聞週間の記念行事として、在阪各新聞社、通信社、放送局、テレビ局など十八社の主催で、きょう午後一時から中之島中央公会堂において、講演会が開かれ、作家今東光氏「新聞と人生」立命大総長末川博氏「国民大衆と言論の自由」の講演が行われた。

工学部　来年度から発足

天六学舎に四学科

二部の千里山移転　再燃か

かねてから検討されていた工学部の設置について、さる十九日の理事会で電気工学科など四学科でもって来年度から天六学舎を施設場所として発足することに決定し、二十七日の評議員会にかけられたのち文部省に申請が出された。

工学部設置の問題は今年になって理事と数名の評議員で構成する工学部設置委員会が組織される一方、評議員会においても設置に関して、財政、総務、学部の三点を協議して来た結果、十九日の理事会で正式に設置の決定をみた。

設置されるのは電気、機械、金属化学の四学科で募集学生数は文部省の規定にそって各科とも八十名となる予定であり、担当教授陣容としては各科に教授、助教授、専任講師が各四名、助手二名が任命されるはずで、この教授陣の完備のために久井専務理事が各方面に働きかけていたが、このほど京大阪大、大府大など関西地区の大学から、十四名の専任教授が決定した。施設に関しては、はじめの二年間が教養過程のため直ぐには必要でないので来年度からの学生募集に並行して除々に整備していく方針であるが、それに要する費用については、向う十カ年計画で設備、人件費その他一切を含めて、七億七千万円の予算を見込んでおり、まず当面の設備費用としては六年間に約二億三千万円の予算が組まれている。

また設置場所が天六学舎内と決定しているので、二部学生への影響が考えられるが、募集が一部のみに限られているから、さしあたっての支障はないものとみられる。

しかし、実習などに必要な工場地帯を近くにもつことが工学部の性質上欠くことの出来ない条件なので、将来は天六学舎全体を理工系学部専用の学舎として利用することも考えられ、二部の千里山再移転の問題も出てくるのではないかと思われる。

独自の採算をとる

久井専務理事談　本学が総合大学としての第一歩を踏み出すことが出来るのは誠によろこばしいとです。財政面では工学部独自の採算という形をとり、他の学部に何ら支障はありません。教授陣については第一線にある工学博士の招へいを意図していますが、それとともに既存学部の改善発展につとめたいと思っています。また工学部の新設は就職問題で理工科系学部がないために不利な立場にあった本学に明るい光を与えることになり、これからは新しい道を切り開いていけるものと信じています。

原則的には賛成

神戸執行委員長談　まだ詳細なニュースを知らないので、はっきりしたことはいえないのですが、本学が工学部を設置して発展を目指すということ自体は非常に良いと思います。しかし全学生の利益に反することや、他学部とのアンバランスな状態での実施であるならば全面的な賛成は出来ません。今度の四者懇談会で具体的な内容をきくつもりですが、その結果、執行部の態度をはっきりさせたいと思います。

教授名は発表できぬ

対外的な影響を考慮

来年度から発足することになった工学部の要項などは太田工学博士（元短大教授）の手許で整理されており、最も重要な教授陣容については現在のところ専任教授十六名のうち十四名の就任承諾を得ているが、氏名は対外的な影響を考慮していま直ちに発表することが差し控えられている。

田中秘書課長談　いまのところ京大、阪大、大府大から理博、工博など十四名の専任教授陣が決まったという以外は一切発表できない。

評議員会開く

工学部設置に関する件を審議する臨時評議員会が二十七日午後五時から天六学舎四十二教室で開かれた。同会議では、工学部新設が今後の本学の在り方を左右する重要な問題であるために相当突っこんだ意見がたたかわされ、満場一致で工学部設置を承認した。

門上氏北京へ

本学校友会組織部長の門上氏（評議員）は十月一日から北京で開かれる日中国交回復国民会議に出席のため九月二十七日午後時五分羽田空港を立った。同会議は、日中国交回復をはかる目的のもとに開催されるもので、全国代表十五名のうち大阪からの一人として門上氏が選ばれたもの。

解説

三年前から話題に

工学部設置にいたる経過

理工系学部設置の問題が話題になり始めたのは昭和二十九年頃だった。しかし、その当時はまだ一部の有力者の間での茶話程度を出なかったが、それが翌三十年になるとにわかに活気づき、秋の七十周年記念式典と相前後して、ようやく公式の会合でも話し合われるようになり出したのである。当時、この問題はかなり具体的な線まで出ていたもようで、この際の空気では経済的な理由も考慮した上で、医学部に重点が置かれたが、正式に決定するまでには程遠しの感を抱かせた。しかしこの年には、悩みの一つであった短期大学の募集中止を翌年度から実施することを決め、短大廃止の線を明らかにしている。これは早晩何らかの手を打たなければならない情勢にあったことも大きな理由の一つであろうが、それとともに、本学の場合、将来の理工系学部設置に対する伏線であったものと考えられないでもない。こうした中にあって、三十一年には岩崎学長の渡米を契機に、コロンビア大学との学術提携ががぜん注目を浴びるに至り、早大とミシガン大学との学術提携の例もあって、理工系学部設置の声は急速に高まって行った。学校側はこの関連性を極力否定したが、アメリカ協力局が示す学術提携の意義からしても、ある程度の真実性をもっていたものと考えられる。もっとも、学校側の権威筋では、このような形での学術提携ならばこちらから断わるという強腰を示していたことも事実である。結局、この問題は岩崎学長がコロンビア大学の出身であるという個人的な関係もあり、具体的な発展をみなかった。しかし、年が明けると理工系学部の問題は急速に具体化し在京各大学の実態調査に向うやら設置委員会を成立させるやらで、設置実現は目睫の問題となってきたのである。その後、久井専務理事の渡米で正式決定は久井氏の帰国待ちといった形であったが、その間も着々と準備が進められていたことはもちろんである。九月十九日の理事会における正式決定はすべてのお膳立が出来上った後のものであって、いまさら驚くべきことではないが、相当の年月を費しながらここまでこぎつけたのが意外にあっさり片付いたのは度胆を抜かれた形である。それにしてもこの問題にからんで惜しまれるのは、昭和十九年に設置した関西工業専門学校を先の見通しもなく廃止してしまったことである。これさえあったならば、いまさら工学部などと騒ぎたてる必要もなかろうし、設備の点でも徐々に完備し、他大学の工学部に決してひけをとらないものが出来上っていたに違いない。こうした点のあい路を今後いかに短期間で充足させて行くか、これが関大工学部の質を左右して行く大きなキーポイントとなろう。

六割が設置に賛成

法学部に多い反対の声

世論調査

別項のように、本学では名実ともに完備した総合大学への第一歩として、来年度から工学部を新設することになったが、これに対して工学部との同居を予想される天六学舎に学ぶ二部学生はどのように受けとっているだろうか、本紙では理事会で工学部設置の正式決定が行われる前日の九月十八日に学内世論調査を実施したが、その中でこの問題についてもふれているので、それの結果について記してみよう。

理工系学部設置の動きがありますが、あなたはどう思いますか。

賛　成	五八・%三
反　対	一九・九%
どちらでもよい	一一・六%
わからない	五・一%
無回答	五・一%

この調査の結果からみると、六割の学生が一応、条件をつけながらも賛成し、反対する学生は二割にすぎず、学生間では工学部設置はまず好意的に受けとられているようだが、これを学部別に分類集計した場合、各学部間で賛否の率に非常なへだたりがあり、現われた数字の上からみると、マスプロ講義の最大の被害者といえる法学部の学生間に反対を叫ぶ声が強く、逆に、学科別に小教室での講義やゼミの多い文学部学生間では反対者が一割弱と、ごく少なく、両者の中間にある経済学部、商学部がそれぞれ中間値を出しており、学部ごとにマスプロ講義の被害度に応じて反対者が増減するという注目すべき結果を生じている。

	賛成	反対
法学部	四三・九	三六・六
文学部	六三・九	八・三
経済学部	六五・六	一八・〇
商学部	五五・六	一一・一

なお、この調査では、現行学部の充実が先決であり、多額の費用を必要とする工学部設置にはもっと慎重な態度でのぞむべきであるというのと、授業料値上げや、コロンビア大との提げいを前提としたものならば反対する。という意見を記したものが非常に多かったが中に理工学部の設備は永久施設であり、夜遅くまでの実験での他で夜間学生の教室を相当数とられる恐れがあり、結果として夜間授業の圧迫となるのではないかという意見が二、三ながらも見られるのは注目される。

原水爆反対集会開く

本学からも七十余名参加

さる十七日、原水爆反対関西抗議集会の集合地として、本学校庭の使用をめぐって学校側と対立、一時は使用不能を危ぶまれたが、十六日夜になって山田学生部長と会見した結果許可された。当日、六時すぎから本学学生ホール前で〝原水爆実験絶対反対〟などのスローガンのもとに府学連、夜学連からも数十名が加わって参集、繩池関夜連執行委員長（本学執行委員）岡田全夜連中央執行委員（本学監査委員長）の声明のあと全学連や広島大学その他からの祝電が発表され六時三十分二台のバスに提灯を手にして七十余名が分乗、中之島公園テニスコートに向った。中之島公園には関夜連、府学連、全青婦の三団体約三百九十名が集合し、平和を守ることが総ての問題に優先することを確認したのち小川共産党員、新谷社会党青年部員、羅災救援協会代表のあいさつがあった。デモ行進は六時から七時までの予定であったが、一時間遅れて七時からデモンストレーションに移った。沿道には多数の警官がすでに待機しており、それと小ぜり合いをしながら御堂筋、朝日会館前、桜橋を経て中央郵便局前という所定のコースを一時間にわたってデモり八時十分国際学連の歌合唱のうちに解散した。

なお、大阪での提灯デモは戦後はじめてであった。

学連代表逮捕に抗議

大阪はカンパと署名運動

さる二十二日午前六時、警視庁公安二課では警官二百名を動員、全学連書記長小野寺正臣君（東大）都学連委員長土屋源太郎君（明大）ら学生八名、労組員十四名計二十二名を逮捕した。これはさる六月二十七日と七月八日の両日、東京都下砂川町の米軍立川基地内測量をめぐる反対闘争で地元民や応援労組員学生がサクを破って基地内に入ったのが、日米行政協定に基く刑事特別法および暴力行為等処罰法に違反するとの結論に達したからである。

これに対して全学連では二十三日の緊急委員会で抗議闘争を行うことを決め、都内各大学に抗議ストを指令したが、二十五日には東京外大など四校がスト決行、他の各大学もそれぞれ抗議集会を開いた。

一方、大阪府学連でも二十五日午後執行委員会を開き、こんごの闘争方針を協議した結果、加盟十二校で資金カンパ、署名運動をすることを決めた。

全学連香山委員長談　全く不当な暴挙だ。これは原水禁大会の成功、春闘対策の失敗など腐敗の鉄因をタナにあげた不当弾圧で、全学連は断固闘う。

準抗告棄却12名釈放さる

東京地裁では今回逮捕された二十二名のうち十二名については拘留の理由なしとして検察当局の申請を却下した。これに対して東京地検ではそのうち三名について準抗告の手続きをとり、他の九名は二十五日夜釈放した。なお、この地検の準抗告申し立てについて東京地裁では審理の結果二十六日午後釈放を決定、同夜三名も釈放された。

警視庁へデモ

全学連を中心とした都内各大学の学生約九百名は二十五日午後警視庁へ抗議デモを行なった。なおデモ行進の途中で警官隊と激突して乱闘となり、学生側に十数名の負傷者を出し、一名が公務執行妨害で逮捕された。

教育大教授会も抗議

東京教育大文学部教授会では、今回の逮捕事件に対して、二十六日警視庁へ厳重な抗議を申し入れた。

同大生にスパイ強要

全学連の砂川処分抗議闘争第一波の行われる前日の二十六日早朝同志社大学内で、ナゾの男にスパイ行為を強要されたという事件がおこり事件を重視した京都府学連では同校とこれを警察スパイと断定、詳細な調査がすみ次第、厳重に抗議するという闘争宣言を発した。

京都学大では女学生に

京都学芸大学でも、一女子学生が砂川事件の抗議大会のもようを知らせてくれと伏見署の警官から強要されたことがわかり京都府学連では伏見署に抗議した。

持時間要求に終始

学園祭準備委もめる

九月十八日午後六時半から学友会会議室で学園祭準備委員会が開かれた。この日は、プログラム決定に議題がしぼられ、大会役員や準備委の選出は次回に行うことを了承したが、各部からの持時間復活要求に終始し最終的には執行部原案を了承、細目は執行委一任となった。だが執行部原案のプログラムを承認する段階に入ったとき、体育本部、応援団代表は持時間の延長を主張して真正面から対立してしまったので、執行部はプログラムの執行部一任案を提出して細目は次回の会合に移す旨発言して散会した。当日出席の各部代表の発言（要旨）は次の通りである。

体育本部＝三十分ばかりでは効果が上らない。根本的なプログラム編成をする必要がある。このプログラムには反対である。したがって、このような会が持たれるなら参加しない。

応援団＝このプログラムは応援団の特色についての考慮が不十分である。時間の点で納得出来ないから、このままでは参加しない。

学術研究部＝時間ぐりには多少の不満はあるが今年の新らしい凝縮した催しの特徴を生かして行きたいので執行部原案を了解する。

文化部＝新しい催物として、フォークダンス、実演と邦楽によるレコード鑑賞など企画したが、財政面で行き詰って中止しなければならなくなったのは遺憾だ。

執行委員会＝今年は一週間にわたって天六学舎を中心にくりひろげられるのだから、各パートはその特色を生かして十分やってもらいたい。

〝訂正〟

第八十六号の学内告知板で学生課通知事項のうち〝なお用紙は教務課で配布する〟は〝学生課〟の誤りにつき訂正します。

学声春秋

〝嫁にやるなら工学士サマへ〟まさに世は工学部ばやりである。東京大学の工学部も来年度は募集人員を増員するようだし、京大では原子核工学部という時流に乗った名前の学部設置案まで飛び出している▼本学でも懸案の工学部設置がいよいよ本決りとなり、来年度から学生を募集することになった。果して名実共に充実した学部が出来上り、新時代の担い手を育て得るか、楽しみであるとともに、少なからず不安も残らないではない▼何しろノート一冊と多少の参考書、そして机と黒板があればどうにか勉強の出来る文科系の学部とはことが違い、金のかかることおびただしい。施設すれば電気工学科をはじめ四学科が出来るそうだが、まるで四人娘をかかえた中流家庭のようなものだ。あまり貧弱な仕度では見栄もある。そうかといって豪勢に出してやるには経済がゆるさない。結局、適当なところで妥協ということにもなりかねない▼ところが、妥協しようにも妥協しかねるのが天六学舎の地下室だ。この学舎の地下室を歩いていると学校の中を歩いているという気がしない。どこかの物置きにでも押し込められたようだ。まだある。動かない時計台もそうだ。学生ホール一つ建たない。まだまだある。毎年学生の数は増えても教室の数は一向に増えそうにない。立ちんぼ授業はもう珍らしい光景ではなくなった▼こうした現在の悩みが解決しないのは予算がたりないからかどうかは知らないが、少くとも在学中の学生には不満だらけ、しかも恐らくそれに数倍の経費を要する工学部の設置が先を越してしまったのは何かうなづけないものがある▼文科系の就職率が年々悪くなって行くのに比較して今や理科系、特に工学部はわが世の春、はや一年に入った時から〝ご卒業のあかつきはぜひ当社へ〟と奨学資金まで贈呈するところも出て来た。各大学が理工系学部をもちたがる気持もわからないでもない。かと云って粗製乱造されたのではこれまた困りものである▼オートメイションは人間を次第に働くことから追い出して行く。これからどしどし世に出る工学士の研究が次々と新しい分野を開拓して行くのはよいがその結果、人間をデクの坊にしてしまうのでは自分で自分の首をしめてかかるようなものだ▲工学部が誕生することは総合大学への一歩を踏み出したものとして、ある意味では歓迎されようが、将来有能なエンジニアを育てるためにも、設備、教授陣ともに充実した特徴あるものにして欲しいとねがうのは設置が決定した今となっては唯一つの淡い希望である。

論説　学園祭を再考しよう

第十回学園祭が近く行われるがこれについての批判がよく聞かれる。学生のなかにはこの催しがどのような状態で運営され、どのような意義をもつものであるかを知らないものが多いという。過去のあり方をふり返り芦の葉文化祭、学研祭とともに考えなおしてみる必要があるのではなかろうか。

本年度も学園祭は、十月二十七日の大手前会館での催しものを中にして行われるが、会期を分散して一週間に及ぶ学園祭を行う意義とは何だろうか。もう一度われわれは学園祭のあり方について考えてみる必要がある。

従来の学園祭は、時間に恵まれない各クラブ・同好会からすればまたとない良い発表の機会となってきたが、それだけに出演者側の一方的な自己満足が多く、一部のもののお祭り騒ぎ的要素が強かった。

こういうところでは一般学生たる観客は、長い時間にわたって比較的価値の低いものの観賞を強いられるということになり、関係者だけがつき合っているという感があった。

もちろん出演しないものもある程度まで興味のないものにも留意し、その成果を見守る必要があるのは当然だが、過去数年来内容の充実が叫ばれつづけてきたところに、関係者の反省が要求される。

一般学生に成果を問う前に批判検討して、観客を楽しませることを念頭に置かねばならないのではなかろうか。フットボールの先攻はフットボールの試合は楽しく観戦し批判をするが、長唄のおさらえにはシビレを切らせて聞かされているだけだといったことは想像に難くない。しかも、出演者ですらも自分の出演時間の何分か前に姿を現わし、出番が終ると会場に姿が見えないというのではその誠意を疑わざるを得ない。

これは具体的にいってタレントの質、つまり大会の意識がわかっていない不勉強さと独善的なクラブ活動の在り方に根因があるようだ。そのことが観客との溝を深めてきたといってもいい過ぎではなかろう。もともと学園祭というものは全学生の支持を得て始めて盛大になり、その意義が現われるものなのである。最近とくに学友会活動に興味を持っていない学生が多いといわれている。学園祭は学友会活動に興味を持っていない学生を啓蒙するのに最もよい機会である。主催者はこの点をしっかり認識して一般学生に働きかける一方、充実したプログラムの作成に努力すべきで、出演を申し出ている団体の希望の最大公約数に終止するならば結果として面白くないに違いない。今年当りは一本の線で貫ぬいて欲しいものである。知性という主催付がそれだ。

第一回文化祭は二部学友会の誕生を記念してもたれたものだが、それ以後回を重ねて十回目に当る。

昨年度にあっては今日あるために知性と良識を基盤とする、大学を象徴した催しものとして、その個有の誇りと意義を対外的に紹介するために名を学園祭と改めた筈だ。勿論、第九回学園祭の舞台上に体育各部の演技の紹介があったりした。けれどももう今年当りは大学の質的向上を示す一大デモンストレーションとしての内容に諮めるべきである。

現在までの学園祭を内容の点で分析してみると、文化祭、学研祭、体育祭プラスアルファーともいうべきもので、当然に疑問となるのはそのプラスアルファーだ。それは関西大学的な性格をねらったものと、関西大学二部としての性格をねらったものと二つに分けて考えられるが、関西大学的な性格を持つ対抗的な催しものとしての理解が不統一のようだった。昨年の学園祭への名称変更の際にも、単に体育関係締出しという感情論に終始したようだが、もっと二部の特殊性を研検すべきであろう。

そこで注目したいのはこれとは別個に文化部が行っている文化祭で第一回芦の葉文化祭が、真に文化的内容の催物として昨年に引続き今年も行ったが、その真意が体育との綜合文化祭には納得できぬというところにあったらしいから、今度の計画の中から折角の芦の葉文化祭が不必要になってきたことだ。従って今度の学園祭が軌道に乗れば、関西大学二部の個有の誇と意義を対外的にも紹介する三大催しものとして学内活動計画も一本にしぼられてゆかねばなるまい。

こゝに始めて関西大学を象徴する催しものとしての曖昧さがなくなり、その性格が明確になると共に、水に油を注ぐような矛盾もなく内容は充実するであろう。今度の第十回学園祭は開催期間を一週間にし、従来どおり大手前会館でのお祭を最終に、学研講演、体育館での体育部演技など、このような形にタレントが調整されたのはよい。そしていつの場合にあっても一般学生、特にクラブに未加入の学生に対し学友会活動への啓蒙を忘れられてはならないことを申し添えたい。

関西大学（1）

学舎と周辺

関西大学は七十余年間、移り変る世相とともに生きて来たが、果してこの間に築かれて来たありのままの姿は現在どのように反映し、生かされているであろうか。褒貶の別を問わず、うそ偽りのない姿を知ることこそ本当の関大生の生き方を知る由でもある。時にはほめすぎることもあろうし、また時には非情なまでに痛みつけることもあろう。しかし全てより良き学園として伸びゆくために記すものである。題して「関西大学」。まず第一回として天六学舎とこの周辺をとりあげてみよう。

夕闇せまる天六学舎に、昼間疲れた足をひきずって登校してくると地下室からおよそふさわしからぬ歌声が聞えてくる。〝自然の秀麗人の親和〟いうまでもなく、関西大学を象徴する学歌である。が、耳をそばだててみるとこの歌声は心なしか沈んだ響きを伝えて来る。それもそのはず、物置まがいの地下室から、冷い階段を昇り切った四階まで、どこをとってみても、一つとして歌声を暖く包む場所をもってはいないのである。おまけにスヽケタ建物の屋上に立ってあたりを見わたせば、まず目につくのが北に立ち並んでいる長柄斎場の黒い煙突。そしてそれに踵を接するようにして墓石の群が東側に灰色のウネリのように続いている。この建物のすぐ北側には、まるでマッチ箱をくっつけたようなK住鉄の長屋が目白押しに並び、南側には四月一日からの売春禁止法の施効で表面上はおとなしくなったとはいうものの、まだまだ従来の名を濃厚にただよわした〝天六の谷間〟という言葉が全くピッタリする青線区域をひかえ、西側の道路には近くの工場から帰る工員や朝風呂から上ってきた老人連中と学生が行き交いその間に貨物車が砂ホコリをあげて走り去るという様子が見受けられる。この異様なふんいきに囲まれた建物こそが、説明をするまでもなく、わが関西大学の象徴、天六学舎なのだ。かつて誰かがスラム街の大学と謳っているのを聞いたことがあるが、また、それほどでないにしても数年前までは何となくそのような感じのする学舎だった。しかし、このように記すと、関西大学の象徴として考えられるのは何も天六学舎だけではないという抗議を受けるかもしれない。だが四年間を天六ですごす者にとっては、やはりこの古い学舎の方がピッタリするものがあるのは無理もないことだ。

二部の象徴〝庶民の大学〟

長柄の孤児天六学舎

環境よりも人間性が問題

【写真は東北方からみた学舎】

ところで、この天六学舎の正式の所在地、つまり手紙が間違いなく届く名称は大阪市大淀区長柄中通り二丁目である。北河内から流れ込んだ淀川が市内に入って来て第一番目の長い橋、それがこの付近の地名を牛耳っている〝長柄橋〟である。

もっとも長柄という地名が先に生れたか、長柄橋が先に出来たかはつまびらかでないが、歴史上からみると、この長柄というのは〝長い河原〟に通ずるといわれ、往時このあたりは渡船を利用しなければ渡ることのできない江沼だったそうである。いうまでもなく大阪市の発展は大阪城を中心にかなり限られた地域から八方に手を拡げて行ったのであるが、明治時代はもちろんのこと、大正年代でさえ、いまの天六学舎のあたりは都心を離れた田舎だったのであろう。その証拠に昔都心をきらって田ンぼの真ん中に建てられた斎場が今や軒を並べた民家や工場の黒い煙突、そしてまばらに建ったビルにすっぽりと囲まれてしまった。このようにどことなく暗い印象に感じさせる長柄という名称、それはまた長柄の孤児の天六学舎にも通じるような気がする。

国際ペン大会にかけつけたスタインベック氏が〝僕は景色なんかには興味がない。興味のあるのは人間だ〟と羽田到着第一声に語ったが、なるほどうまいことといったのである。天六学舎の窓から周囲の風景を眺めて嘆息ばかりしていたら、通っている人まではかなく見え諸行無常それでは長柄の住人も天六学舎に通う学生もお気違な次第。印刷工場で活字を拾う工員さんも、一膳めし屋で冬に愛嬌をふりまく娘さんも、そして蛍光灯の下でペンを走らせる関大生も長柄に由来する無常とは無関係に動いている人間そのものである。

話は大分昔のことになるが、昭和五年六月、現在の天六学舎で起った授業料値上げに反対する空気は当時の専門部から第二経済にまで波及し、ついには同盟休校を決議した。その時、いまの講堂兼用になっている三十六教室はけっ起大会の会場となり、また東北角の入口にある二階ロビーは学生のアジの拠点となったことが記録に残っている。同じ三十六教室で開かれる最近の学生大会、三十年近い歳月にどれだけの進歩をみせたか、すべてはこの間のほこりを休みなく吸い込んだ学舎の建物だけが知っているであろう。人間、それはすべてにまさる本質でもある。同じ学舎で学んだ人と人、それは社会環境や政治機構の中で大きく動めいたにせよ、建物そのものには、みじんも影響を受けなかったのである。

関西大学はよく庶民の大学だといわれ、また自称もしている。いったい庶民とは何だろうか。火葬場と墓場に囲まれている。ネオンのまたたく盛り場にも隣接している。しかし、これらをもって庶民の大学だというのはあまりにも能がない。庶民は学生での一人一人の中にあるヒューマニズムである。人間そのものである。

部員募集

本社では本年度後期部員を左記の要領で募集しますから、ふるって応募して下さい。

記

一、人員　広告活動に従事できる一、二年次生若干名
一、書類　本社所定の履歴書一通
一、期日　十月五日（土）午後六時二十分—八時
一、場所　新報社編集室

関西大学新報社

日本で唯一の
夕刊英字新聞
ASAHI EVENING NEWS
朝日新聞社

商工出版
コールラウシュ　原著第20版
監訳者：久保田広・飯谷寛夫・磯部孝・高木登
実験物理学　全6巻完結
A5判美本上製函入　各巻約四百頁　八五〇円
全巻完結者に別巻（文献・データ諸表・総索引）を無代進呈します〆切10月10日
グランベルグ　東工大教授谷口修他訳
工業計測法　原著第7版の改訂新版　A5　六百頁　九八〇円
アンゲラー・エーベルト　原著第10版　本庄五郎他訳
物理実験技術　B6判　三百頁　五八〇円
シュポルスキー　玉木英彦　他訳　原子物理学　ソビエトで唯一の基礎的教科書　I ¥850　II ¥650　III 近刊
ソ連教育科学アカデミー版　基礎数学　教育者のための参考書（近刊）　全16巻
チモシェンコ著　谷下市松　渡辺茂　訳　工業振動学　15年ぶりの増訂新版　A5判　450頁　¥750
チモシェンコ著　鵜戸口英善他訳　材料力学　世界的名著の17年ぶりの改訂版　上巻 ¥700　下巻 近刊
O.リヒター　K.フォス著　前田禎三 他訳　精密機器の要素　精密設計の技術的参考書（近刊）
原子力ハンドブック基礎篇　好評4刷　¥700
大学名記入のうえ内容見本を本社宛お申込下さい
▷東京都港区芝琴平町1　不二屋ビル◁

☆就職完全対策☆
要説　経済白書
—暴走した日本経済をつく—
経済の成長が投資のいきすぎのため予想外に伸びその結果輸入の増大で国際収支は悪化した。政府や民間が注意信号を無視して、無二無三に日本経済を暴走させたとする今回の経済白書を平易簡明に説く。
B6判美装　二五〇頁　定価一七〇円
主要会社　入社試験問題詳解
全国主要会社130社にて施行された入社試験問題とその適切なる解答を収録。
大学事務系篇（B6判500頁　定価220円）
大学技術系篇（B6判250頁　定価180円）
法律・経済　専門用語解説（B6判　800頁　定価180円）
現代新語辞典　1958年版（B6判　800頁　定価180円）
就職試験　論文対策　大学篇　33年度版（B6判　150頁　定価100円）
東京都文京区小日向水道町40　一ツ橋書店　振替東京86263

果然好評
東大名誉教授　相良守峯編
和独
—内容見本進呈—
ポケット判・六〇〇頁・ビニール装・函入　定価三八〇円　〒20
大判豪華版・菊判背革装・価一〇〇〇円
新しい感覚によって編集した戦後初めての和独辞典。不可欠な新語を豊富に収め、配列に工夫をこらし、収容語数五万余。文法的な説明を添えたので、初学者も十分活用できる。
関口存男著　改訂標準　初等ドイツ語講座　全三巻　各冊価一三〇円
最新刊　阿部賀隆著　新制ドイツ語入門　価一三〇円
十版好評　相良守峯閲・横関雄純著　よくわかるドイツ語　価一六〇円
十一版好評　三修社編集部編　ドイツ単語ノート　価一五〇円
五版好評　三修社編集部編　ドイツ熟語ノート　価一五〇円
七版好評　真鍋良一著　新ドイツ語会話　価二〇〇円
目録進呈　東京・文京本郷二丁目　三修社　振替東京72758

三大連載小説
興味ある話題
清新な知識！
花の雨　子母沢寛
黒い花粉　舟橋聖一
眼の壁　松本清張
週刊読売
毎週月曜日発売　30円　読売新聞社発行

部長宅に抗議の電報

混乱した原水爆禁止集会

さる九月十七日に行われた原水爆禁止抗議集会に際して、本学では集会の正式許可をめぐり、抗議電報、激励の電報、はては祝儀までが飛びかうというテンヤワンヤのさわぎを起した。何が原因でそのようなことになったのか、その内幕をのぞいてみよう。

戦後十年を経て世界に原水爆の脅威を知らせようと呼びかけられた第一回原水爆禁止世界大会は、全世界の良心にうけとめられて「広島で会いましょう」という合言葉を生んだ。昨年の第二回大会はその成果の上にたって平和を守るという意識的な高まりをみせ、安井郁原水禁止協議会長の「現実政治を動かす力とならん」という言葉に象徴されるように被爆者をして「生きていてよかった」とその愁眉を開かせたものだった。さらにひきつづいて行われた本年の第三回大会は、八月六日からの予備会議を含めて五日間、東京においてもたれ真に世界大会としての意義を示し、核実験禁止、軍縮解決の鍵をもつ注目の米、英、ソ他二十七カ国の参加が得る中で「人類を守る闘い」を強力に押し進める方針を決定した。

しかし、この大会は満足すべき、統一された成功をおさめえなかったようで、とくに国内において検討されねばならない問題がでたようである。全学連の代表が昨年と相変らず国際状勢、国内状勢の分析という公式理論の押しつけをやったり、米代表に対しては侮辱的な野次を投げかけたというのや、大会の立派な決議をどう保存するのやらわからないという国内代表があったという。その間の事情をある外国代表は「冗漫な討論が多過ぎる」と感想を述べていた。とはいえこれらの欠陥の指摘は、よりよき大会を創るためのものであって、世界の信頼と期待を裏切るものではなく、世界大会の飛躍的な発展を傷つけもしなかったことは明らかである。第三回大会がだした東京アッピールは、全世界の人類を守る良心の出発点としての原点を世界に知らせ「各国政府および国際連合が原水爆実験禁止のために効果的な措置を速やかにとる」ことを要望したのである。

この具体的な第一歩が九月十七日に行われた原水爆禁止国際抗議デー運動で、泣いて訴える時代は過ぎたという原水協が昨年世論を湧かせた抗議船団派遣の問題を経て生んだ提案であり、世界大会の決議であった。当然にこの決議は本学学友会にも持ち帰られ、世界大会に参加した中井副委員長ら五名を中心にその計画が討議された。その間本学が送りだしていた関役連委員長三宅君（法三）の病気辞任があり代って続池君（文二）が関役連委員長を引継ぐという組織の停滞があったが関役連組織と府学連との提携による集会が十二日に決定をみたのだった。

これより先、本学執行部は、新学期から執行委員長の選出に混乱をみせた矛盾の中で、本学単独だけの集会を主張する穏健派と、世界大会代表だった人たちの急進派との対立を生んでおり、神戸委員長への不信という内部分裂を露呈しながら統一を欠きつつあった。そこへ起ったのが明石学生部長代理の発言問題である。

これは十七日の集会届に対し学生部長が「ノー」と答えたのを不当とした神戸執行委員長らが明石教授と会見したときにもたらされた「十七日の集会は政治色の強いものである」からという学生部としての回答で、世界大会に対する政府の多少の消極さはあっても、岸内閣ですら対米政策を考慮しつゝも協力しなければならない原水爆運動に対し、明石教授の発言は失言ともいえるほど不用意なものだったのである。

そこで執行部は当夜早速にこの問題を討議し「世界の知性と良心に逆行し、自治権への不当なる断圧である」という見解をうちだした。しかもその席上、たまたま居合せたのが府学連の大門委員長だったから執行部の気勢はとみに高まった。勿論ここまでは不当な評価だった。ところが神戸委員長、広岡副委員長が、夜中に山田学生部長宅に飛んで最後的態度を求めにいったところ「政治色とは考えていない。試験前の授業中のことでもあるから多勢の集会は正式に許可できないが任意ならばいい」とのこと、そこで執行部は最低の目的が果せることを確認した。

しかし府学連の方では自発的に一時間おきの抗議電報を山田部長宅に既に発信しており、全学連本部、広島、九州各大学からも一斉に「カチトレ」の激電が舞込んできた。今更架空の闘争だったとはいえない状態になってきたわけだ。そこででたのが任意とはけしからぬ、正式に許可しろという要求だった。しかも激電の後を追うように十六日には各校から「ジョウリオシユクス」という祝電が送られるという組織的高まりが関大を全国的な存在におしあげてきていた。

つまりこういった外的制約の方が先に学友会の行動を規制していたわけで、十五日に「断圧反対」の決議をした法一クラスも架空の闘争に参加したのだったが、結果的には外部団体も参加した上での本学における集会が正式許可をみたのだった。

本部の在り方としては一人でも多くの学生を参加せしめるというところに全ての回答がかかったわけだが、目新らしい提灯行列という計画にもかかわらず意外に集りは悪く、本学学生五十名ほどが参加したに過ぎなかった。これは試験を目前に控えているという不利な条件もあったが、観光バスを借切るというものものしさによってさえも人が集まらぬということは、動員態勢を整える本部側に問題があったようだ、内部批判もいいが、それが統一を乱すためのものでないよう願いたいものである。

とはいうものの、本部側のよびかけに対して一般学生が非常に無関心であることも事実で、それが原因となって執行部の独走におちいることがしばしばあり、ともすれば学生から浮き上った存在となりながら、それに気付かぬことが多いのである。とくに原水爆禁止なら誰でも参加するのは当然だとみているような「情勢分析」の甘さと変に意識ばった一部委員の若さが、全学生とのつながりのないところで当局との対立を生んだようだが、本質的な当局との対立はこういう問題からは提起されないという良心への信頼は欠いて貰いたくないものだ。勿論、この行き違いの根因には当然学生課長の存在の曖昧さが浮んでくるが、そのことも含めて今後の正しい回答を執行部に期待したい。しかし、事の是非はともかくも、今回の問題を通じて働きかけのあった学連組織の力と行動の迅速、大なる信頼と確信をもたらしたようで、思わぬ副産物であったといえようし、戦後初の提灯デモを大阪で決行した学連の意欲は十年の歴史の変遷を物語っているようである。

なお、ここで念のために書き加えておきたいことは、学友会における情勢分析の甘さもさることながら、学生らとの折しょうの窓口である学務当局が非常に権威のない、あるいは言葉を変えれば無責任な態度で発言していることが事を紛糾させる一因になっているのではないかということである。今度のことにしても、終始一貫して筋の通った責任ある態度がとられていたならば、あのように、みっともない混乱をおこさなかったのではないだろうか。これを機会にお互いの反省と、それを土台とした発展をのぞみたいものである。

時評

黒人問題と日本

金戸　嘉七

アメリカの南部では、共学問題をめぐっての、黒人と白人の争いが続いている。ある地では学校の焼きうち騒動まで起った。民主主義だとかなんだとかの、本家のように思われている、アメリカでの話だから皮肉である。黒人に対する差別待遇は、いまに始った話ではなく、昔はもっともっとひどいリンチを加えていたことも事実である。ただ次第に黒人の社会的位地が向上してきたし、それに増加してくる黒人人口が、一票の「投票用紙」にみえる、白人の政治家たちにとって、いつまでもこの差別のままに放任しておけなくなったので、黒人に対する公民権問題であり、共学問題であるわけなのだ。しかし政治家ならぬ白人大衆にとっては、そんな配慮をするいとまはない。州兵を繰り出してでも、共学をはばもうとする知事の現れるゆえんはここにある。

日本人とても、大きな口をきけぬことをしているが、こんな事実を目の当りにみせつけられると、戦時中伝えられた、アメリカ兵が負傷している日本兵を並べて、戦車でひき殺したという、目を蔽うような残虐行為も本当ではなかろうかと考えたくなる。これは大統領の政治力とか何とかいう問題ではない。もしアメリカ人の中に、こうした行為をして、恥と思う気もちがないというのなら、われわれはアメリカ人を軽蔑してよい。核実験をやめようとしないのも、こういった差別観念の別個の現れと考えるべきだ。

戦時中の残虐行為の真偽は、しばらく問わないとしても、アメリカ人に有色人種に対する差別観念が根強くあることは疑いもないことである。白人優越という、どこに根拠のあるかわからない思想は、何もアメリカだけの話ではないが、われわれに直接関係のあるのは、いまから四十年も前の、カルフォルニア州における排日問題であった。当時内村鑑三は、彼自身はアメリカで教育を受けた人であったにもかかわらず、アメリカはもはや悪魔の国だといって、その差別観念を責め、これに対処するには

第一　成るべく米国に行かぬ事。
第二　成るべく米国品を使はない事。
第三　成るべく米国人の援助を受けない事。
第四　成るべく米国人の書いたものを読まない事。
第五　成るべく米国人の教会に出入りしない事。

を勧告し、また「我等の心の中に米国人の金が欲しくなくなって、我等は既に米国に勝ったのである」と繰り返して説いている。しかも内村は、これらの文章を反アメリカの目的で書いたのではないと、これまた幾つかの個所で述べている。内村の説くところを、そのまま今日に用いるべきかどうかは、考えねばならないが、アメリカが口に親善を唱えながらも、その心中においては、有色人種である日本人に、抜くことのできぬ差別感をもっていることは否めない。それは黒人に対する今回の態度をもってしても十分に証明されることだし、内村がすでに看破しているように、アメリカ人の固有の観念となってしまった排日思想が、慈恵的外観をもって現れることの中にも、もっとハッキリと現れている。それは日本だけではない。多数の国々に援助の名で送られ、そして日本ばかりでなく、多数の国々の心あるものによって、それを受け入れまいとする気分を盛り上げさせているものである。これは反アメリカというような単純なものではない。その非を覚りうるなれば、当のアメリカのためになることではないのか。

岸首相は、アメリカを訪問したことによって「日米は新しい関係に入った」と自覚している。しかし、岸に内村ほどのアメリカに対する深い洞察力があるとは、夢にも思えないことである。われわれの印象は、岸がこれまでにも増して、アメリカの意を迎えることに努め、内村が警告した条々に背くことを、「日米関係」と言断して帰ってきたと受けとらせるのである。これではアメリカの対日差別観は強まってこそ弱まりはしない。彼は慈恵的外観をかざることにより、意のままに操ることができると信ずるようになる。四十余年前の予言者の言が、着々実現されてゆくことを、今日の眼で覚りえぬとは、日本の不幸だけでなく、アメリカの不幸であり、世界の不幸といわなくてはならない。

（筆者は本学部教授）

書評

暗い家庭の姉弟愛

幸田文の近作「おとうと」

出版されるたびに必ずベスト・セラーにランクされる。まことに幸田文という作家はめぐまれた人である。これには露伴の娘という毛並のよさもあろうが、「流れる」を出発点とするこの人の作風はすでに独特の境地を見出している。それはひたすら沈黙を守った五十年の人生体験であろう。「おとうと」はこうした意味からも彼女の血であり肉であろう。

不和な両親、しかも夫にとっては二度目の妻で子供たちにとっては継母、その継母がまた病身の上に一家の経済状態は思わしくないという全く悪条件ばかり重なった家庭で子供はどのように育って行くのだろうか。彼女はこのテーマを自叙伝的にかなり刻明に、しかもせん細な筆の運びで徐々に深い感動を盛り上げている。

この中心人物である弟の碧郎は見離された家庭から次第に抜け出し遂には不良化へと、形通りの道を歩んで行くのであるがそれを細やかな愛情で見つめている姉のげんにむしろこの作品の焦点がしぼられて行くのは、女流作家幸田文にしてみれば当然のことであろう。

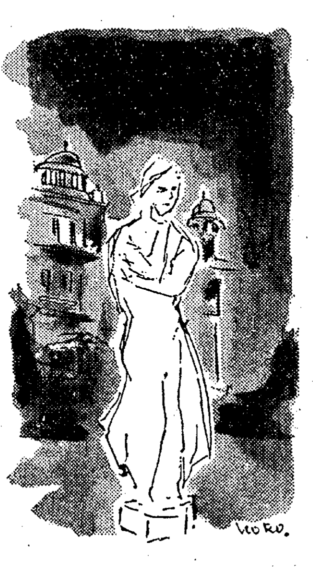
縁談までも断って弟のために尽す姉の姿はやや甘さにおぼれた感がないでもないが、そこはそれで彼女の人間観でもあり、作意でもある。そして、弟によって惜し気なく消費される青春は姉の中に秘められ、抑えられた心の象徴でもあろう。

そうした中で、この作品は注目すべき一つの副題を追っている。それは弟の碧郎が次から次へと遊びを変え、あくことのない無軌道ぶりを発揮するが、これが若い碧郎にとって、一つの性欲抑制の手段となっていることを示しているからである。勿論、こうしたことは姉のげんは気がつくはずがないが碧郎自身にもわかっていない。性心理学の問題としてはすでに多くの資料と研究が公にされているが、小説の中に、しかも嫌味なくそれこそ"流れる"ような文章で追求しているのは彼女らしくて面白い。

最後に碧郎が馬もろ共、河原へ落ち、幸い自分は擦り傷程度だったが、借りていた馬を不具にしてしまい、父親に大きな負担をかけることになった時、姉や父母を心配させたまま遂に帰宅しないという場面で終っているのはいかにも女の作家らしい結末で物足りなさを感じる。

それにしても「流れる」以来の幸田文の活躍は目ざましいものがある。女であること、という条件も彼女をここまで仕立てた理由の一つであろうが、むしろそれ以上に女であると同時に人間であるという条件を十分得て来たことが彼女を一流の小説家にさせたものと思える。この傾向は今度の「おとうと」でほとんど完璧の域に達したものとみてよかろう。しかもまだ余力のある人、これからどんな作品を示してくれるか楽しみである。（中央公論社・二八〇円）

文芸



秋・あき・秋

天高く馬ーとくれば秋と答えるのももはや月並みに近いない。けれども古き革袋の新しき酒がカリプソでは日本人的郷愁も湧かぬというもの。だから無常感を込めて高原にゆれるスキの穂が、やはりピンと秋を思わせるし、秋刀魚をためらわず推すのは庶民のそれであろう。古い酒はやはり甘味いということだ。

そこで更に女性のでるのが凡人による秋のドラマの定石だ。気廻しの三十女が痩せ薬にいそがしくなるのもこの頃だからである。けれども神は、皺のゆかない女性をわれわれに与えている。それはヴィーナス。画家や彫刻家にとって女性の裸像は微妙な線と色彩の明暗を探る虎の巻でさえもある。つまり永遠の美は今も昔も変らぬ発想によるほろにがさなのだ。

相場あげる独身婦人

自由恋愛論を説く　平民新聞（2）

平民新聞がどれほど強く非戦論を主張していたかは、前回紹介した非戦論特集号（第十号）の内容によっても十分推察されたことと思うが、この新聞の最大の特色をあらわしているのが非戦論であることを考えて、もうしばらくそれについてふれてみよう。第十号には、前回の「小日本なる哉」の他に「平民の見たる戦争」という論説がのっているが、その内容は、現在わが国の再軍備論者が読めばどのように答えるだろうか、と思われるほどに時代の差を感じさせないものをもっている。次にその一部を紹介しよう。

我々平民が戦争に就て最も迷惑を感ずる一事あり、何ぞや兵卒に徴発せらるゝこと是れ也、世の主戦論者の多数は自ら戦場に臨む者にはあらず、彼等は犬をケシかくる人也、陸海軍の将校は自ら戦場に臨むと雖も其の犬をケシかくるに於ては同一也、彼等は愛国心の餌と名誉の網とを以て平民の子弟を兵営に引入れ、更に之を朝鮮満洲の野に駆り、硝煙弾雨の間に其屍を晒さしめんとする者なり、我々平民は必ずしも彼等のオダテに乗る者にあらず、然れども之に従はざれば直ちに此首を刎らるゝを奈何せん……兵卒は強迫せられて兵営に入り、殆んど無給にして而も奴隷の如く扱はるゝは何の故ぞや

さらに日露戦争の開始二週間前に出された第十一号の論説では「奇怪なる今の戦争論者の頭脳は吾人平民の常識に在て到底不可解也」と主戦論者を狂人並みに扱い、第十三号の青眼白眼でも「最も熱心な主戦論者は卑夫愛国の出願者と炭坑の持主と借金だらけの士官」と皮肉っているように、開戦ぎりぎりまで国民の反戦心理高揚に努力してきたが、その努力の甲斐もなく戦争になってしまった後、二月十四日に出された第十四号では「戦争来」「兵士を送る」「戦争の結果」という三つの社説をかかげ、まず第一の「戦争来」において「戦争は遂に来れり、平和の攪乱は来れり、罪悪の横行は来れり……吾人平民は飽まで戦争を非認せざる可らず、速に平和の恢復を祈らざる可らず……戦争既に来るの今日以後と雖も、吾人の口有り筆有り、紙有る限りは、戦争反対を絶叫すべし」とあくまでも戦争に反対する態度を表明し、続いて第二の「兵士を送る」ではきわめて大胆に、率直に、しかも非常に強く人間的感情に訴えた次のような一文をかゝげている。

行矣従軍の兵士、吾人は今や諸君の行を止むるに由なし

諸君今や人を殺さんが為めに行く、否ざれば即ち人に殺されんが為めに行く、吾人は知る是れ実に諸君の希ふ所にあらざることを、然れども兵士としての諸君は、単に一個の自働機械也、憐れむ可し諸君は思想の自由を有せざる也……諸君の行くは諸君の罪に非ざる也、英霊なる人生を強て、自働機械と為せる現時社会制度の罪也……吾人今や諸君の行を止むるに由なし……諸君の老親は独り門に倚り、諸君の妻児は空しく飢に泣く、而して諸君の生還は元より期す可らざる也、而も諸君は行かざる可らず……吾人の為し得る所は唯だ諸君の子孫をして再び此惨事に会する無らしめんが為めに、今の悪制度廃止に尽力せんのみ、諸君が朔北の野に奮進するの如く、吾人も亦悪制度廃止の戦場に向って奮進せん

この一文が、もし第二次大戦当時の新聞にのせられていたらどうだったろう。筆者はもとより関係者全員が処分を受けずにはすまされなかっただろうと思われるほどの文章である。また第三の社説「戦争の結果」においても、たとえ戦争に勝っても、あるいは負けても常に戦争というものがもたらす永久不変の弊害を説いているが、ここでは紙面の都合もあり、詳しい内容紹介は省略し、次に目先を変えて婦人問題をとり上げよう。

平民新聞が婦人問題についても非戦論と同じように熱心であったのは当然といえるが、とくに極端な制限選挙のおこなわれていた当時早くも普通選挙を叫び、しかもそれに関して婦人を選挙権所有者とすることを考え、また家族制度とか、恋愛についても、婦人の立場を十分に考慮しており、俳優の情夫をもった貴人夫人の密通事件といえば、ともすれば興味本位のスキャンダルとして扱われがちなものだが、これを「生きたる者には情あり、情は強いて抑ふ可らず、只善く之を導かざる可らず、今の社会は婦人の情を抑へて、男子と富者とに都合よき家族制度、経済制度の犠牲に供せんとす、惨なる哉」と実に鋭く家族制度について批判の目を向けており（第十四号婦人の運命から）そのほか、第二十四号の「恋愛と教育」をはじめとして、婦人の立場向上のための自由恋愛論を説くなど、婦人解放のための論説記事を数多くのせている。そこで、それらの中から、あまり堅くるしくなく、しかも含みをもったものとして木下尚江の「女は男を何と見るや」という論説記事を紹介しよう。

男の方より「女は男を何と見るや」との問を発し得ると同時に女の方よりは「男は女を何と見るや」との問を発し得べし……先づ「男は女を何と見るや」を説き……婦人の好みが役者の様な男の上にあれば、帝国大学にも早稲田大学にも三田の慶応義塾にも乃至は番頭さんなどの中にも役者の様な男が増へる。又婦人が軍人の様な男を愛すれば、同じく軍人の様な男がドコにも増へる……而して気の弱なるは男子の中にも婦人のニコリ一つを買はんが為めに一破産ー負債ー敢て辞せない様なのが出て来るー女には此の大なる魔力がありますが私はコレを女に捨よとは云はぬ、之が女の生命だから、又私は男が此の大なる魔力に支配さるゝことを不名誉だとは思はぬ……ただこの大なる魔力が正則に出れば社会は御目出度く、逆に出れば男を迷はし社会を迷はすーこの魔力は婦人が逆境にある時に逆に出るのであるから婦人の地位を幸福にしてこの魔力が正則に出る様にしたい　婦人を逆境に落し置きて、その魔力が世を害すると、直ちに悪魔と罵る社会よ、請う静かに右の言を味へよ

同じく婦人問題を扱ったものとしては、第十五号に「社会主義婦人講演の記」と題して社会主義協会による講演の大要が記されているので、その中から二、三の記事を拾ってみよう。まず堺利彦の「家庭における階級制度」と題した講演は、非常に大胆な表現をしているが、いずれも烈しい自由恋愛論にもとずくものといえるのではないだろうか。

▲今日の夫婦の関係を見るに、男子は生活の余裕が出来た所で、娯楽の為に女房を取る、女子は年頃になれば生活の地位を得んが為に嫁に行く、故に男子は常に女子の処女か否かを問ひ、女子は常に男子の月給の多寡を問うて結婚を為す……

▲野合はイタヅラとして人之を賎む、これは父母親族の承認を経ぬからである、然し正式の結婚には肝心の本人の承諾を経ぬのが沢山あるでは無いか……

▲愛のなき貞女の細君よりも、我は寧ろ愛のある芸妓奴を尊敬する、また愛のない正式の夫婦よりも我々は寧ろ愛のある野合の男女を尊敬する

▲男女関係の第一の要素は愛である……男子に対する女子と云ふ階級も無くなって、男女は只其性能に応じて分業をする事になる、此に至って始めて真実の愛の結合を見る事が出来るので、此に至って始めて恋愛は神聖となるのである

堺の自由恋愛論を通しての婦人に対する社会主義思想の将来に対して、西川光二郎は経済的な、とくに職業という面から婦人問題の中心点を説明し、幸徳秋水は戦争に関連して説いている。とりわけ秋水の「婦人と戦争」では戦争の婦人に及ぼす被害を述べており、「古代戦争の頻繁な時に、婦人の頭が上らぬのは当然である、生殖の用の外は婦人は全く手足纏いであった……紫式部や清少納言のやうな婦人は太平でなければ出られぬ」とまで極論し「文明の婦人たる者は更に進んで永遠の万国平和を固くするのに力めねばならぬ」と結んでいる。

以上記してきた「社会主義婦人講演の記」の最後を飾るものとして村井知至の「日本婦人に対する二大迷想」と題する講演がのせられており、現在なお多くの学ぶべき点をもっていると思われるのでそれを紹介しておこう。

日本婦人に対する二大迷想の一は、女子は必ず男子に嫁すべき者であるとの思想である、今の女子教育の方針は謂はゆる賢母良妻主義である……それで女学生は卒業前になると、丁度男の学生が職業を求むる如く、頻りに結婚先を求めている……賢母良妻主義で咲くべき花を咲かせずに終らせるのは、実に甚だしき不経済である……独身婦人が多くなればそれで婦人の相場（地位）が上る迄の事、今では売らう〳〵といふから相場が下る、女の方でピンピンはねていて御覧、女大明神になってしまふ、そこで自由結婚が始めて出来る、以上は婦人の覚悟次第で出来る事で……婦人問題は婦人の手でヤッテ戴きたい

（注）引用文の仮名づかいなどは原文通りで、文中の……は省略を意味する。

人間性の尊さ描く

芸術祭参加の「純愛物語」

映画評

社会問題をとり上げては他に比べる者がないという今井正監督が同じく女性特有のせん細さとそれにも増して力強い筆で、シナリオ界では押しも押されぬ第一人者水木洋子のオリジナルで描こうという「純愛物語」タイトルの印象にはちょっとふさわしくない物語が展開するこの作品は芸術祭参加と銘打っただけあって、今秋の期待作の一つであろう。

スリ仲間の少年と少女がふとしたことから愛し合うようになった。二人ともフダつきだったが、次第にまじめに生きることの尊さを知る。このころから少女の病気は進み、原爆症のため死んでしまう。病院のベッドには少女が純愛をこめて作った白いマスクがむなしく残されていた……いったい誰を怒ったらよいのだろう。

こうしたテーマはとかく暗くなりがちだが、前作の「米」でも見られたように、今井はこれをシンのある作品に仕上げ、問題と真剣に取組んでいるのはいつもながら好感がもてる。このようなまじめな作品が大衆の注目をあびることは国連総会に原水爆の製造禁止が提案された以上に共感を呼び、一人一人の胸にその重要性をしっかりと認識させることが出来るであろう。これはかたくるしい決議文とか、裏の裏がある政治家の演説といったものからではなく、愛し合う二人の若者の中からヒューマニズム豊かに訴えて来るからである。

主演の中原ひとみは体当りの演技で好感がもてるし、相手役江原真二郎も「米」以来の進歩の跡がみられる。その他、岡田英次、木村功、東野英治郎、宮口精二、楠田薫、長岡輝子ら新劇界でもまれた人をまじえているだけに、それぞれ個性をよくつかみ、みごとに役柄をこなしている。

それにしても、今年の芸術祭に出す東映の作品はこの「純愛物語」と脚本八住利雄、演出関川秀雄で撮る砂川基地問題をあつかった「爆音と大地」で、二作品とも、現在の日本がもっとも悩み苦しんでいる問題と対決し、政治への不信を間接的に訴えながら、人間性の尊さを打ち出しているのは好感がもてる。（龍）

学内告知板

三十二度後期レントゲン集団検診を、十月一日から九日の間に体育会館内第二診察所で行う。なお検診は無料で、法学部、文学部、経済学部、商学部の順で各部二日間ずつ行われる。

第三学舎の落成式

松永文相を迎えて十七日

十月十七日午前十一時から千里山経商第三学舎の落成式が同学舎扇形教室で行われる。なお当日は松永文相も来賓として出席、盛大に行われる予定。

体育会総会終る

体育会の総会は九月二十一日六時半から天六学舎体育館で矢野会長らが出席して開催された。

音楽手帖

陰気な恐ろしい全合奏のフォルティッシモの演奏で幕が開く。舞台は十九世紀初めローマの聖アンドレア・デュルラ・ヴァルレ教会の内部、この陰気なプロローグは人々の恐怖の的になっている警視総監スカルピア男爵のモチーフで、これに続いて急に半音階で下降するシンコペーションによるモチーフが激しく管弦楽に現われ国事犯人チェザーレ・アンジェロッティが逃げてくる。いうまでもなく、プッチーニ作曲歌劇「トスカ」のプロローグで一気に聞く者の興味を舞台にひきつける。ここで聖母の像を描きにきていた画家マリオ・カヴァラドッシと脱獄してアタヴァンティ侯爵夫人の手引で逃れてきたアンジェロッティの二人は期せずして出会い、カヴァラドッシは旧友をかくまうために誘いにやってきた恋人の歌姫フローリア・トスカに気のない返事しかできない。

一方警視総監スカルピアはカヴァラドッシがアンジェロッティをかくまっていると狙んで、この機を利用し、カヴァラドッシを陥し入れ、かねて思っていたトスカを得んものと彼とアタヴァンティ侯夫人とは通じているとそそのかして部下に後を尾行させ、「一人は牢に、一人は我が手に」と叫ぶ。第二幕はファルネーゼ宮殿二階のスカルピアの部屋で、スカルピアはカヴァラドッシを拷問にかけ、見兼ねたトスカは「庭の井戸」とアンジェロッティの隠れているところを言ってしまう。そこでスカルピアの申し出を受け入れてカヴァラドッシの釈放を頼む。スカルピアは一度国事犯をかくまったのだから形式だけでも死刑にしなければならないから、空砲で死刑することにするといってトスカを抱く。だがトスカは隠し持った短刀で抱かれながらスカルピアを刺し殺してしまう。

第三幕刑場であるセント・アンジェロ城の屋上の露台でトスカはカヴァラドッシに会い空砲だからと告げる。執行吏の銃声が轟く。カヴァラドッシは倒れる。もう起きてもかまわないといって近寄ったトスカは驚く。カヴァラドッシは死んでいたのだ。スカルピアにだまされたと知ったトスカは露台から身を投げる。（A）

学園祭

22日から一週間

大手前会館を中心に挙行

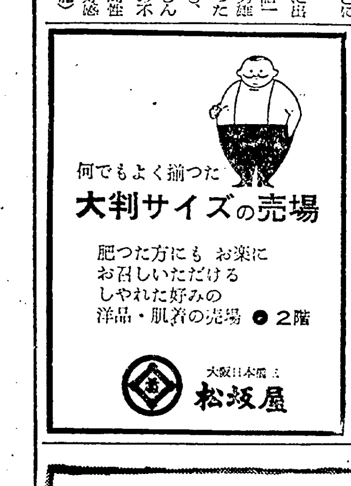
今年の学園祭は、千里山学舎でおこなわれる大学祭と呼応して十月二十二日から一週間にわたって開かれることになった。まず二十四日には社会科学研究部主催のシンポジウム、二十五日は体育各部による各種競技が体育館で公開され、二十六日の講演会を経て、二十七日には大手前会館で学研、文化、体育各部の総合学園祭が挙行される予定である。

おしらせ

本社では来る四日（金）午後六時三十分から編集室で本年度前半の活動状況、紙面構成などに関する新報批判と反省の会をおこないますから、皆さまの御意見をお待ちしております。また、十月十五日付の本紙第八十八号は学園祭号として発刊を予定していますなお"学生ホール"は都合により本号休載します。

関西大学新報社

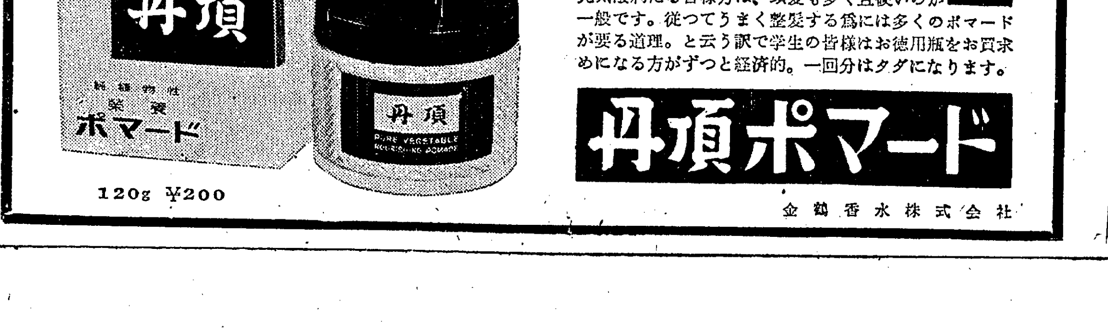
松竹映画
イーストマン 松竹カラー 総天然色
喜びも悲しみも幾歳月
一万五千呎全三時間 一部・二部一挙上映
日本映画空前のスケールに描く
巨匠木下恵介の涙と感動の名作
原作・脚本・監督 木下恵介
高峰秀子
佐田啓二
中村賀津雄 田村高廣 桂木洋子 有沢正子 田中晋二 井川邦子 三井弘次 夏川静江
10月1日公開 松竹系


何でもよく揃つた
大判サイズの売場
肥つた方にも お楽に
お召しいただける
しやれた好みの
洋品・肌着の売場 ●2階
大阪日本橋 松坂屋

酒落た洋服なら
ダルマヤ洋服店
大阪市北区天神橋筋六丁目　TEL ㉟2522

栄養価満点
衛生設備と安価で栄養十分な食事を誇る食堂
御休憩 御食事 は是非皆様の学内食堂へ
天六学舎 佐伯食堂

千日前名代
きつね おそば
はつせ
ライス物 丼物一式
大劇東側
大阪で千日前のはつせと御ひいきを頂いて居ります
電話 南(64)2267



学生の皆様はお徳用瓶を
どうぞ…
元気潑溂たる皆様方は、頭髪も多く且硬いのが一般です。従つてうまく整髪する為には多くのポマードが要る道理。と云う訳で学生の皆様はお徳用瓶をお買求めになる方がずつと経済的。一回分はタダになります。
丹頂ポマード
120g ¥200
金鶴香水株式会社